

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：防災行政	
日付：11 月 1 日 土曜日、セッション時間：10：45～12：15	
司会者名（所属）：及川康（群馬大学大学院）	
討 議 内 容	セッション全体： ■地域における災害時を表現するこの手のシミュレーションモデルの用途を考えると、どうしても助からない壊滅的な状況であった場合に、それを住民に提示することは果たして意味があることなのか？その場合のリスク・コミュニケーションの意味とは？→壊滅的な状況は回避出来ないとしても、中くらいの被災に対しては有効な手だてがある場合があるし、ましてや軽微な被害については対応可能かもしれない。そこを引き出すことは重要だ。がんばれるところはどこなのかを示してあげるコミュニケーション。■地域の中で影響力の大きい人物の意向が、地域全体の意向を規定してしまうことが多い。そのようなことを陰に陽に行政担当者は認識したうえで対応をとっているケースは多い。■住民から行政への不服申出は、何らかの補償や対応を引き出すことが目的の場合が多い。しかしその申出先が間違っているがために何の補償も対応も出てこない（成果が無い）場合があるので、フィットする申出先へうまく誘導してあげることも必要なのではないかな。
	（116）柄谷友香（名城大学）： ■平時からコンティンジェント・サービスを専門で担うセクションというものはある。そのあり方が災害時対応に影響を及ぼすのではないかな。■都市部と農村部とでは違うのではないかな（地域リーダーの有無やその影響力）。■どこまでを公助にお願いするのかの見極めは必要。■いずれにせよ防災に関して住民と行政との関係構造がをどう考えるのかが問題。
	（117）二神透（愛媛大学）： ■この Simulation の用途は？→ (1)Communication Tool (2)Real-time にどういう救急をすべきかを検討するため ■危険度を 3 レベルに設定する必然性は何か。■(2)の用途については、中山間地域のような場所はトリアージ的に後回しになってしまい外からの支援を期待できない可能性が高いので、このツールでは検討不可能。リアルタイムで戦略的に救急活動を行おうとすれば、このような地域はマクロでいったら切り捨てられてしまう。
	（118）奥村誠（東北大学）： ■あくまでこれは被災者搬送のための道路の計画モデルではなくて、耐震化計画モデルである。■医療施設耐震化の状態を現状では 0-1 の離散変数で表現しているが、耐震化の程度に応じた連続的な施設容量としても解析可能。■このモデルの用途は、「どのように耐震化するのかを決める」ことではなく「どのような状況になり得るのかの指標を示す」ことにある。■死亡リスクは経過時間の関数となっているのでリンク所要時間の扱いは重要であるが、今回のように固定的な設定でも用途には十分叶うと考えられる。